



14ひきのおつきみ

14ひきのシリーズ

いわむら かずお さく

童心社 1988年 1260円

32ページ 19×27cm

14ひきのねずみ達が高い木の上でお月見台を作っています。森の仲間たちもやってきて、真っ赤な夕日がしずんだらお月見の始まりです。

絵の中に細かく描かれた虫やかえるを探したり、ねずみ達それぞれについている名前をおぼえてひとりひとりの性格を思い浮かべながら見るのも楽しいでしょう。昼から少しづつ夜になっていく様子が、空を描かずに森全体の色で表現されています。やっと夜になって空にのぼったお月様の絵はそれまでに空が描かれていなかったぶん、印象的です。

シリーズを通してねずみ達と彼らの暮らす森の様子が季節感いっぱいの美しい絵で描かれています。



しょうぼうじどうしゃ じぶた

渡辺 茂男 さく 山本 忠敬 え

福音館書店 1963年 780円

28ページ 19×27cm

消防自動車じぶたは、古いジープを改良したちびっこ消防車です。働き者で、小さな火事だとすぐに飛び出し消し止めます。けれども大きな火事は任せてもらえず、いつも他の車に出動命令が出るのでした。他の3台は、それぞれじぶたに無い才能を持っていて、子ども達にも人気です。じぶたは時に3台をうらやましく思い、悲しくなる事もありました。そんなある日、山小屋が火事になり、狭い道を進めるじぶただけに出動命令が出ます。小さなじぶたは大活躍し、無事に火を消し止め、山火事を防ぐ事が出来ました。小さなじぶたがその体を生かして活躍する姿は、誰しも持ち味があり、それを生かす場があるのだと感じさせてくれます。写実的な車の絵も素敵です。

